

スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報(令和4年度・2022年度)

○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップ2023札幌大会」
期 日 令和5年1月20日(金)～22日(日) (男子個人戦 3 戦)
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種 目: 1月20日(金) ラージヒル(HS137) 個人戦(16:30 競技開始 ナイトゲーム)
1月21日(土) ラージヒル(HS137) 個人戦(16:30 競技開始 ナイトゲーム)
1月22日(日) ラージヒル(HS137) 個人戦(10:00 競技開始)

参加選手数: 65名 外国選手 53名(その他海外役員・各国コーチ数 67名)
日本選手 12名(クォーター6名+開催国枠6名) 参加国数18か国

(令和4年度のスポーツ振興助成金「競技大会助成事業」は、1980年より札幌で開催している男子ジャンプワールドカップ札幌大会の3年振りの開催にご支援ご協力をお願いし実施した。)

1980年から始まった国際スキー・スノーボード連盟主催のジャンプワールドカップは、札幌においても40年以上の歴史と経験を積み重ね、継続的に開催してきた世界トップクラスのジャンプ選手が多数参戦する国際大会である。コロナウィルス感染症の影響で2021、2022年が中止となったため、2023冬は3年振りの開催となった。

今季は国際スキー・スノーボード連盟の要請を受けて3戦を開催、1月20日(金)から3日間、予選ラウンドと本選を実施することとなった。開催国枠12名の日本選手を含む65名が参戦、2022シーズン北京五輪において金メダルを獲得した小林陵侑選手(土屋ホーム所属)を擁する日本チームは、世界各国の選手と熱戦を繰り広げた。

1月19日に日本選手を含む選手団が札幌に到着、開催国枠の日本選手12名を含む65名がエントリーし、翌1月20日は公式練習及び予選ラウンドを行い50名が本選に進出した。札幌初の金曜日夕刻の開催ながら多数の報道並びに観客が来場、熱戦を期待するファンが声援を送った。曇り空、気まぐれな風が吹く大倉山1戦目は、小林陵侑選手が1本目の2位から2本目に逆転、地元開催で実力を発揮して優勝を飾った。翌21日もナイトゲーム、天候は晴、時折強めの向い風の中、大倉山を得意とするオーストリアのシュテファン・クラフト選手が1本目に139.0mで1位につけ、2本目も135.5mで優勝した。前日に勝利を挙げた小林選手は、1本目11位の成績から2本目1位のポイントで3位に食い込んだ。1月22日の札幌3戦目は、天候晴れのコンディションながら、時折大倉山特有の強い向い風が吹く中で、その「風」を味方につけ飛距離を伸ばすことが出来る選手が勝者となる展開となった。向い風によって飛距離が出やすくなるためスタートゲートは低い位置に設定したが、世界トップクラスの選手達は大きなフライトを見せていた。その中で、やはり昨シーズンのW杯覇者、小林陵侑選手が安定したジャンプを披露し札幌において2度目の勝者となり、3年振りの札幌開催に訪れた報道関係者並びに日本選手の活躍を期待する来場者を大いに盛り上げた。コロナ禍の開催時期ながら、選手・競技役員・大会役員ほか来場者の協力により、無事に開催出来たことは今後の国際大会の開催に弾みをつけた大会となった。

【助成金の使途】

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催/助成金額 8,939,000円
借料及び損料(会場設営機材等)、雑役務費(競技場整備・警備等)

FIS Ski Jumping World Cup
2023 Sapporo
20. January.2023





FIS Ski Jumping World Cup
2023 Sapporo
21. January.2023



FIS Ski Jumping World Cup
2023 Sapporo



FIS Ski Jumping World Cup
2023 Sapporo
22. January.2023



FIS Ski Jumping World Cup
2023 Sapporo

